

上西郷川に 自然を取り戻す

かつては自然豊かな川だった上西郷川。コンクリートの護岸の川から、昔の姿を取り戻すまでの取り組みを「上西郷川日本一の郷川をめざす会」の会員に話を聞きました。

子どもたちの提案から泳げる川を目指す

上西郷川やその本流の西郷川は、生活排水によって水が汚れ、生き物が住みにくい川になっていました。旧福岡町は大切な自然環境を次の世代に引き継いでいくために「西郷川リバーズ基本計画」を平成13年に策定しました。この計画には、心に残る

ふるさとの川をつくることや、町が開催した「まちづくり子ども会議」で子どもたちから提案された「泳げる川、西郷川」を目指すこと、川で環境学習ができるようにすることの3つの基本的な考え方があります。

ワークショップを開催しみんなで話し合った

計画の一環として平成19年、



林博徳さん
九州大学工学研究院助教。日本一の郷川をめざす会の共同代表

市は「上西郷川川づくりワークショップ」を開催しました。地元に住む大人や子ども、九州大学の研究者、市職員などが参加し、上西郷川の環境改善に向けた話し合いを行いました。このワークショップを運営したのは、九州大学流域システム工学研究室の島谷幸宏教授と林博徳助教です。林さんは当時、博士課程の大学院生でした。「護岸の作り方から、川沿いに植える樹木まで、とことん話し合った」と話す林さん。「話し合いで出てきた課題を、専門家を呼ぶなどして、みんなで勉強し、一人一人が納得できるように進めた」と、この取り組みの特徴のひとつを教えてくださいました。



▲図面や模型を用いて行ったワークショップ



▼地元の人による維持管理

地元の一番の要望は洪水を防ぐこと

ワークショップに参加した佐藤真弓さんは「ワークショップの中で、昔は上西郷川にもたくさんのお花が飛んでいたことや、川沿いが桜並木できれいだったことを聞いた。そんな昔の風景を少しでも再現できればと思い、参加した」と当時を振り返ります。伏見一彰さんは「地元の人が一番の関心は洪水の心配で、たくさんの方が参加していた。今はまちの真ん中で自然景観づくりと防災の2つともが実現して感激している」と話してくれました。

みんなの思いを川づくりに反映

ワークショップで決められた案を基に、市は平成22年から約4年間かけて川の改修を行いました。洪水を防ぐために、川幅を約2倍に広げ、岸の一方は石積み、もう一方は緩やかな斜面を作り、自由に川へ近づけるようにしました。

また子どもたちにも改修に参加してもらい、間伐材や石を川に置き、水の流れを多様にしました。自然のものを使い、生き物が生息できる場所を増やす取り組みは、この川のもうひとつ

の特徴でもあります。

人にも生き物にも優しい多自然川づくり

上西郷川には「多自然川づくり」という河川管理の手法を取り入れられました。これは、自然の営みを視野に入れ、洪水を防ぐこととあわせて、自然環境や景観、地域の人の暮らしなどへの配慮を行うものです。島谷さんや林さんには「研究者として、この川にみんなの思いを反映させ、多自然川づくりのモデルにしたい」との強い思いがありました。

川の維持管理は地元の皆さんの協力で

ワークショップがきっかけで、地元の有志などが、川遊びのイベントの企画や環境問題の啓発などを行う「上西郷川日本一の郷川をめざす会」を設立しました。また、福岡南郷づくり推進協議会が会と連携して川の保全活動を行ったり、両谷区の皆さんが定期的に草刈りを行ったりしています。上西郷川は地元の協力で維持されています。

世界からも注目されている多自然川づくり

上西郷川の取り組みは平成28年、市民共働や多自然川づくりが評価され、土木学会デザイン賞の最優秀賞を受賞しました。また国土強靱化や地方創生が評価され、第1回グリーンレジリエンス大賞の金賞も受賞しました。その他、NHKの国際放送「NHKワールドJAPAN」の番組に取り上げられたり、韓国からも視察が来たりするなど、多自然川づくりのモデルとして注目を集めています。



伏見一彰さん
福岡南郷づくり推進協議会環境・景観部会長



佐藤真弓さん
市青少年指導員。宗像警察署委嘱少年指導員

楽しく安全に川遊びができるように

両谷区では、上西郷川を美しい姿のまま残し、安全に川と親しむことができるように、草刈りなどを行っています。活動には女性や親子の参加もあり、交流の機会もなっています。自治会長の小田宗人さんは「子どもの時に川で遊んだ経験はいい思い出になる。子どもたちが楽しく川遊びができればとの思いで活動している」と話してくれました。



▲両谷区自治会長の小田宗人さん